

1 平成 22 年度に求められる取組

(1) 年間指導計画の作成

- ① 各校の特色や地域の特性、児童の実態に応じた年間指導計画を作成する。
- ② 単元の設定や配列を工夫する。また、第 3 学年と第 4 学年の目標は分けて記載する。

(2) 単元や教材の開発

- ① 移行期間中に先行実施する内容の指導計画、教材・教具（特に地球儀や世界及び日本の常掲用地図）の準備を行う。
- ② 各学年における内容の改善点を把握し、地域の特性に応じた教材開発に努める。

(3) 配慮すべきこと

- ① 移行期間中に先行実施する内容と実施学年を確認し、確実に実施できるようにする。
- ② 体験的な活動や表現活動等を工夫するとともに、問題解決的な学習の一層の充実を図る。

2 教育課程編成上、参考となる取組例

(1) 47 都道府県の名称と位置（第 3 学年及び第 4 学年）

- ① 我が国における宮城県の地理的位置を地図で確かめるとともに、我が国が 47 都道府県によって構成されていることや都道府県の位置などを、地図帳で確かめ名称を白地図上に表す。
- ② 「知っている県」→「宮城県に接している県」→「東北地方の県（天気予報の活用）」→「関東地方の県（新幹線，高速道路などの交通網の活用）」→…などのように範囲を広げていく。

(2) 県における特色ある地域の人々の生活（第 3 学年及び第 4 学年）

- ① 自然環境を保護・活用している地域の事例
○気仙沼市・蔵王町…海辺や山間地の特性を生かした産物などを資源として保護・活用。
- ② 伝統・文化を保護・活用している地域の事例
○鳴子町・雄勝町…伝統的な技術を生かした工業を保護・活用。

(3) 世界の主な大陸と海洋，主な国の名称と位置，我が国の位置と領土（第 5 学年）

- ① 六大陸と三海洋については、地球儀や地図で位置や名称を確認するとともに、白地図に書き表す。その際、我が国とそれらの国の位置関係を確認する。
- ② 主な国の名称と位置については、ユーラシア大陸やその周りに位置する国々から 10 か国程度、北アメリカ、南アメリカ、アフリカ、オーストラリアなどの大陸やその周りに位置する国々から 2 か国程度を選択する。（選択例→仙台市と姉妹都市関係にある都市をもつ国など）

3 教育課程編成上の Q&A

Q1 「法やきまり」（第 3 学年及び第 4 学年）を取り扱う上でのポイントは何か。

A1 例えば節水・節電など資源の有効な利用についての学習では、身近な法やルールを通して、人々が社会生活の維持と向上に努めている意味を考えさせ、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う学習が大切である。

Q2 「情報産業と国民生活」（第 5 学年）の学習における改善のポイントは何か。

A2 従事している人々の工夫や努力に変わり、情報化した社会の様子と国民生活との関連を重視した。「情報ネットワークの有効活用」では、情報ネットワークのしくみを理解させるのではなく、情報を双方向的に活用することで国民生活の向上に結び付いていることをとらえさせたい。